

## 姉妹型チェック尺度の妥当性の検討

著者	白佐 俊憲
雑誌名	北海道女子短期大学研究紀要
巻	25
ページ	1-13
発行年	1990
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00001648/">http://id.nii.ac.jp/1136/00001648/</a>

# 姉妹型チェック尺度の妥当性の検討

## An Examination of the Check Scale of Sister Type

白 佐 俊 憲

Toshinori SHIRASA

### I は じ め に

畑田国男氏は新女性分類学として「姉妹型」を提唱しているが、著書『姉妹型性格判断』（バン・リサーチ・インスティテュート、1988）のプロローグでは、読者に、まず、チェック尺度（「姉妹型」チェック①・②、同書 p. 15～23）によって自分の姉妹型及び女系 F 度を確認するよう求めている。本研究は、このチェック尺度の妥当性の検証を目的としている。

性格・適職・相性などを判断する手がかりとしては、血液型・生年月日などを使用し、これを固定的・機械的・宿命的に当てはめるものが多いのであるが、畑田氏の提唱する「姉妹型」は、「環境の人間学」として「氏より育ち」を重視し、生まれはどうあれ、自分がどのタイプの姉妹型に該当するか、すなわち、出生位置（長子・中間子・末っ子・一人っ子）のどのタイプの特徴を備えるように扱われ育てられてきたかをチェック尺度で確認してから、適職なり相性なりを見ていく点に特色がある。これは、畑田氏がいうように「理に叶った、万人を納得させることのできる分かりやすい人間学」（前出書 p. 14）ということができる。また、「この姉妹型の研究は、おびただしい数の健康なお嬢さん、フツウのおばさんの観察・取材が基になっている」（前出書 p. 19）点でも注目される。

ただし、「姉妹型」チェック①・②が十分に妥当性（識別性）を備えたものでないと、実際の出生順で機械的にタイプを決めてしまう以上に判断の歪みや混乱を招くことも起こり得ると考えられる。特に、この種のものは高校性・大学生などの若い女性に好んで読まれ参考にされるだけに、その影響力を考えると極めて重要であると判断される。ここに、「姉妹型」チェック①・②が十分に妥当性（識別性）を備えたものであるかどうかを検証する意義がある。

### II 方 法

#### 1. 調査の実施方法

尺度の妥当性を追試的に検証するために、できるだけオリジナル尺度に合わせて実施するよう計画した。ただし、基準として使用した対象者の人数・年齢・学歴・居住地、適用の方法と限界が著書・論文・雑誌記事などで具体的に公表されていないので、必ずしも忠実な追試研究とはなっていない。

「姉妹型」チェック①・②の妥当性の検証方法として、この研究では、『姉妹型性格判断』

の中心的読者層であると考えられる女子短大生を対象に選び、様々な専攻分野で学ぶ者に実施した。有効回答数は542であった。内訳は表1～3に示すとおりである。

表1 対象者の条件

区 分	条 件
対 象 者 数	女子短大生（ほとんどが北海道出身） 542人（2校）
年 齢	ほとんどが18～19歳（1年生）
専 攻 分 野	家政・生活教養・美術・保健体育・教育・英文
出 生 位 置	表2・表3のとおり
きょうだい数	表2・表3のとおり
きょうだいの性	表2・表3のとおり

表2 対象者の構成

出 生 位 置 別		きょうだい数別		きょうだいの性別	
出生位置	人 数 (%)	きょうだい数	人 数 (%)	性 別	人 数 (%)
長 子	264 (48.7)	1 人	309 (63.1)	女 の み	196 (40.0)
中 間 子	61 (11.3)	2 人	154 (31.4)	男 と 女	99 (20.2)
末 っ 子	165 (30.4)	3 人	20 ( 4.1)	男 の み	195 (39.8)
一人っ子	52 ( 9.6)	4 人以上	7 ( 1.4)		
計	542(100.0)	計	490(100.0)	計	490(100.0)

(注)「きょうだい数別」、「きょうだいの性別」の算出に当たっては、一人っ子は除いて計算している。ここでいう「きょうだい」には本人は含まれていない。

表3 表2の相互関係(出生位置との関係)

単位：人(%)

きょうだいの構成		長 子	中 間 子	末 っ 子
きょう だい数	1 人	189 (71.6)	* ( * )	120 (72.7)
	2 人	67 (25.4)	48 (78.7)	39 (23.6)
	3 人	8 ( 3.0)	7 (11.5)	5 ( 3.0)
	4人以上	0 ( - )	6 ( 9.8)	1 ( 0.6)
性 別	女 の み	113 (42.8)	16 (26.2)	67 (40.6)
	男 と 女	42 (15.9)	36 (59.0)	21 (12.7)
	男 の み	109 (41.3)	9 (14.8)	77 (46.7)
計		264(100.0)	61(100.0)	165(100.0)

(注) \*印は、該当するものがありえないことを意味する。

集団的に実施するために、オリジナル尺度にできるだけ忠実に質問紙形式の調査票（表4・5，基礎項目は省略）を作成した。そして、「姉妹型を確認する尺度の妥当性を調べる調査である。学生番号を記入してもらいが、回答方法などに誤解があると判断される場合に、もう一度本人に確認してもらうためである。この結果を他の目的や個人別に利用することはない」というインストラクションのもとに協力を要請し、平成元年10月中・下旬に実施した。

表4 「姉妹型」チェック①（A型・B型・C型・D型の確認尺度）

1. 次の項目から、あなたの性格や行動パターンに当てはまるものを選んで、（ ）内に○印を書き入れてください。とてもよく当てはまるものには◎を、大体当てはまるものには○を書き入れてください。あまり時間をかけないで、感覚的に気軽に判断してください。
- ( ) 1. 電話は、かけるよりも、かかってくるほうが多い。
  - ( ) 2. 執着心がない。せっかくロングにした髪も、切りたくなったらバツサリ切ってしまう。
  - ( ) 3. 年よりも若く見られる。
  - ( ) 4. ビデオはマメに録画しているほうである。
  - ( ) 5. 嫌いな人に対してもイヤな顔はできない。用事を頼まれると、やってしまう。
  - ( ) 6. アドレス帳には、男女を問わず、友人の名前がビッシリ書かれている。
  - ( ) 7. 家庭では年よりも背伸びしようとするが、異性の前では逆に子供っぽくふるまってしまう。
  - ( ) 8. 人と争うのはイヤである。人の機嫌をとるのは、もっと嫌である。
  - ( ) 9. 人の見ていないところで、人に対して細かな心を配るのが好きである。
  - ( ) 10. 飽きっぽい性格だが、おおらかなので、友人もこの点を責めたりはしない。
  - ( ) 11. ロゲンカで負けたためしがない。
  - ( ) 12. 自分から友情の輪を広げよう、という積極的な意志はない。
  - ( ) 13. 1週間のスケジュールはキチンと立てる。
  - ( ) 14. よく考えず、すぐ行動するので、失敗も多いが、そのことをあまり気にしない。
  - ( ) 15. 依頼心が極度に強い。要領がメッポーよい。
  - ( ) 16. 一見無気力で消極的に見られるが、内面の感情表現はとても豊かだ。
  - ( ) 17. 精算をゴマカすなんて、私には、とてもできない。
  - ( ) 18. チカンに襲われたら、大声で騒ぐ。
  - ( ) 19. 自分を目立たせるために我を張る。意図的なワガママ娘だ。
  - ( ) 20. 結婚なんてしなくていいや、とよく思う。

表5 「姉妹型」チェック②（女系F度の確認尺度）

2. 次の項目から、あなたの性格や行動パターンに当てはまるものを選んで、（ ）内に○印を書き入れてください。この項目については、上の場合とは違い、少し考えてから真面目に正直に答えてくだ



さい。なお、7・11・15・20・23の項目は、●印を書き入れてください。

- ( ) 1. 人前であくびをしてしまったとき、とても恥ずかしくて穴があったら入りたい、と思う。
- ( ) 2. 化粧しないで外出するなんて、ハダカで街を歩くような気がして嫌だ。
- ( ) 3. 男の人って、力持ちだし、メカにも強いし、やっぱり女にはない能力を持っていると思う。
- ( ) 4. 親戚一同の集まりのときは、女ばかりがかたまって、アレコレ近況報告をしあうことが多い。
- ( ) 5. 母と話をしているときに、父が入ってくると急に話題を変えたりする。
- ( ) 6. 髪をロングにしている。あるいは、かつて、ロングにしていた期間が長かった。
- ( ) 7 髪をキャリアゲにしている。あるいは、かつて、キャリアゲにしていた期間が長かった。
- ( ) 8. 自分の結婚相手が、友達のパートナーよりも経済的に恵まれていないなんて許せない。
- ( ) 9. 菜食主義を実践している。または、実践してみようかな、と、よく思うことがある。
- ( ) 10. テレビ番組は、お笑いものよりも、ドラマものが好きである。
- ( ) 11 「ビートたけし」が好きである。
- ( ) 12. (クルマの免許の有無にかかわらず) クルマを自分で運転することに興味がない。
- ( ) 13. もし病気で入院するとしても、6人部屋とかは絶対に嫌だ。
- ( ) 14. 男たちの好んでするワイ談には加わりたくないし、できれば、耳にもしたくない。
- ( ) 15 ワイ談なんかは、好きなほうである。(この項目該当者のみ、●印を三つ記入すること)
- ( ) 16. 小学校・中学校・高校・短大のうち、三つ以上が男の子のいない女子だけの学校だった。
- ( ) 17. 女の子同士で交換日記をつけていたことがあって、それを毎日楽しみにしていた。
- ( ) 18. 結婚前に付き合っていた人があったとしても、夫には絶対そのことを秘密にしておく。
- ( ) 19. 朝シャンは大流行する前からやっていた。
- ( ) 20 朝シャンを一度もやったことがない。
- ( ) 21. ファミコンに熱中している人を見ると、別世界の人間のように思える。
- ( ) 22. 男子の体育クラブの部屋など、臭くて汚くて、どうしても入る気にはならなかった。
- ( ) 23 男子の体育クラブの部屋には、平気で何度も入ったことがある。
- ( ) 24. 友人の持ち物やファッションの変化に敏感で、上手にはめることができる。
- ( ) 25. もし今度生まれ変わるとしても、やっぱり女に生まれたいと思っている。

## 2. 結果の整理方法

比較検討のもとになる具体的な資料が公表されていないために、仮説の設定や結果の処理・解釈に当たって、いくつかの不明点・疑問点が生じてきたが、オリジナル作成者の畑田氏に直接手紙で照会して確認した。

「姉妹型」チェック①は姉妹型の四つの型、すなわちA型・B型・C型・D型を確認する尺度であるが、表4の20項目は次ページのように分類されるようになっており、◎にはチェック点2、○にはチェック点1を与える。それぞれの型のチェック点合計を算出し、四つの型のう

ちでチェック点合計が最も高かったもの（突出したもの）を、その人の姉妹型と判定する。二つ以上の型のチェック点合計が同数の場合は、混合型とみなし、それぞれの型の記号を組み合わせた表現で示すことにした。

項目1・5・9・13・17の合計が最も高い……A型（長子的性格）

項目2・6・10・14・18の合計が最も高い……B型（中間子的性格）

項目3・7・11・15・19の合計が最も高い……C型（末っ子的性格）

項目4・8・12・16・20の合計が最も高い……D型（一人っ子的性格）

「姉妹型」チェック図は女系F度、すなわち女性度を確認する尺度で、項目1から順に○印1個を1ポイントとしてプラスし、●印があれば1個1ポイントでマイナスし、25項目の総ポイント数を算出する。総ポイント数が多いほど、女性度が高いと判定する。畑田氏の基準によれば、11ポイント以上が「F」（男兄弟のいない女だけの姉妹たち）とみなされる。

0 ポイント……ホトンド男（ホトンドM）

1～4 ポイント……男まさり（むしろM）

5～10ポイント……男女平等派（スタンダードタイプ）

11～15ポイント……シングルF（F）

16～19ポイント……ダブルF（FF）

20 ポイント……恐怖のトリプルF（F<sup>3</sup>）

### 3. 結果の検討方法

得られた542人の結果を、きょうだい関係の出生位置（長子・中間子・末っ子・一人っ子）及び性別構成（自分以外のきょうだいが女のみ、男女を含む、男のみ）によって分けたグループごとに数量的に整理し、統計的に概括的な妥当性を確認することにし、全体的・相対的に次のような結果になるとの予想（仮説）を立てた。

(1) 「姉妹型」チェック①について

- ① 長子の群はA型突出（長子的性格）者が最も多いであろう。同様に、中間子の群はB型突出（中間子的性格）者が、末っ子の群はC型突出（末っ子的性格）者が、一人っ子の群はD型突出（一人っ子的性格）者が最も多いであろう。
- ② ①と同様に考え、各項目についてみた場合、長子の群ではA型の項目に○（◎を含む）を付ける者が多いであろう。同様に、中間子の群ではB型の項目に○を付ける者が、末っ子の群ではC型の項目に○を付ける者が、一人っ子の群ではD型の項目に○を付ける者が多いであろう。

(2) 「姉妹型」チェック②について

- ① 女きょうだいだけの中で育った者は、女と男のきょうだいの中で育った者よりも女系F度（女性度）のポイントが高いであろう。また、これらの者は、自分以外は男だけのきょうだいの中で育った者よりも女系F度のポイントが高くなるであろう。
- ② 各項目のチェック率は、女きょうだいだけの中で育った者の方が、女と男のきょうだいの

中で育った者よりも高いであろう。そしてさらに、自分以外は男だけのきょうだいの中で育った者よりも高いであろう。ただし、■印番号（前出書では▶印）の項目は、この逆の傾向を示すであろう。

### Ⅲ 結果及び考察

#### 1. 結果

得られたデータを点検し、集計したのが表6以降である。これらについて、統計的な検定を行った結果、統計的に有意な差は認められず、結果の検討方法で挙げた「姉妹型」チェック①についての二つの予想も、「姉妹型」チェック②についての二つの予想も確認することができなかった。したがって、これらの尺度で姉妹型や女性度を判定することは困難といえる。

まず、「姉妹型」チェック①では、図1・表6に示すように、長子群も、中間子群も、末っ子群も、一人っ子群も、すべてA型突出（長子的性格）者が最も多く、B型突出（中間子的性格）者が次に多いという結果になり、群間の差は認められなかった。各群の識別（該当）率はいずれも低く、長子群A型が39.0%、中間子群B型が23.0%、末っ子群C型が6.1%、一人っ子群D型が7.7%であり、4群の平均は、19.0%である。表7・8は、観点を変えて、チェック点の平均及び分布を算出し、検討を加えたものである。これによっても、同様な結果しか得られなかった。表9の項目別分析では、2項目で有意差が認められたにすぎない。したがって、大半の項目が、識別力のないものであるといわざるを得ない。

次に、「姉妹型」チェック②では、図2及び表10～13に示すように、きょうだいが女のみ群も、男女を含む群も、男のみの群も、一様に女系F度のポイントが低く、群間の差は認められなかった。すべての群の6割の者を「男まさり」又は「ホトンド男」と判定している。11ポイント以上の「F」（男兄弟のいない女だけの姉妹たち）とみなされる者は、「女きょうだいのみ」の1%にすぎない。表14の項目別分析では、すべての項目で群間に有意差が認められなかった。

これらの尺度について、更に厳密な条件の整理（二人っ子だけの比較、3人きょうだいだけの比較）によって再検討し、有効な項目の存在を検討したが、以上の結果を修正するような成果は得られなかった（紙面の関係で分析データは省略）。

#### 2. 結果の考察

以上のように、予想（仮説）が全く確認されない結果となったことについては、一般的に次のような論議が可能である。

① 「予想（仮説）が適当でなかった」と判断する。一般的に、長子が長子的性格を、中間子が中間子的性格を、末っ子が末っ子的性格を、一人っ子が一人っ子的性格を持つと考えられないのなら、また、女のきょうだいの中で育った者の方が女性的特徴を多く持つと考えられないのなら、オリジナルの「姉妹型」そのものの存在が否定されることになりかねない。兄弟姉妹の出生位置による性格・行動の違いについては、いくつかの調査・研究で報告されていると

図1 チェック①による姉妹型の確認

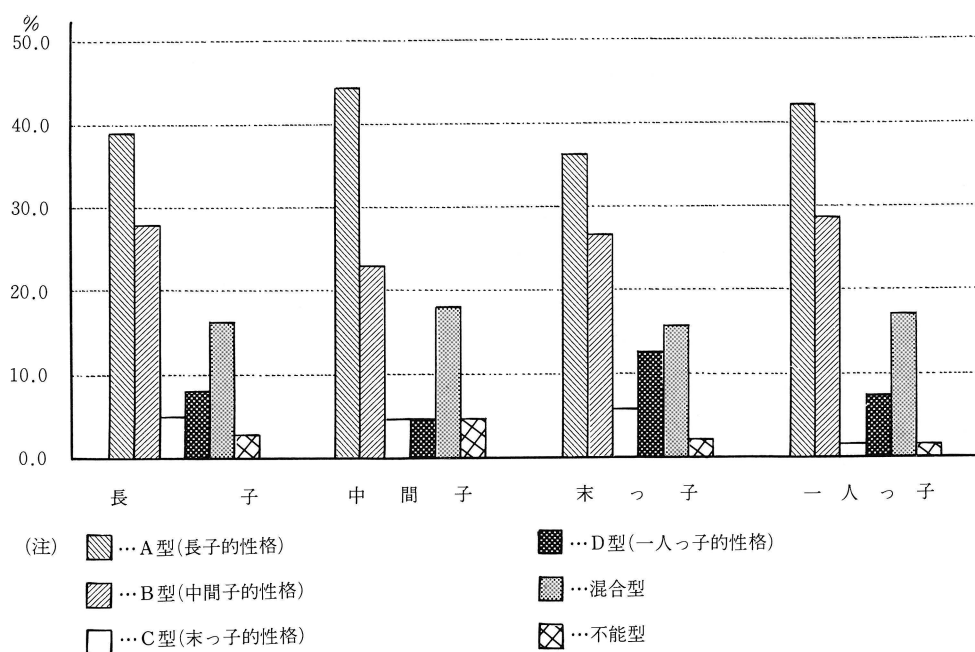
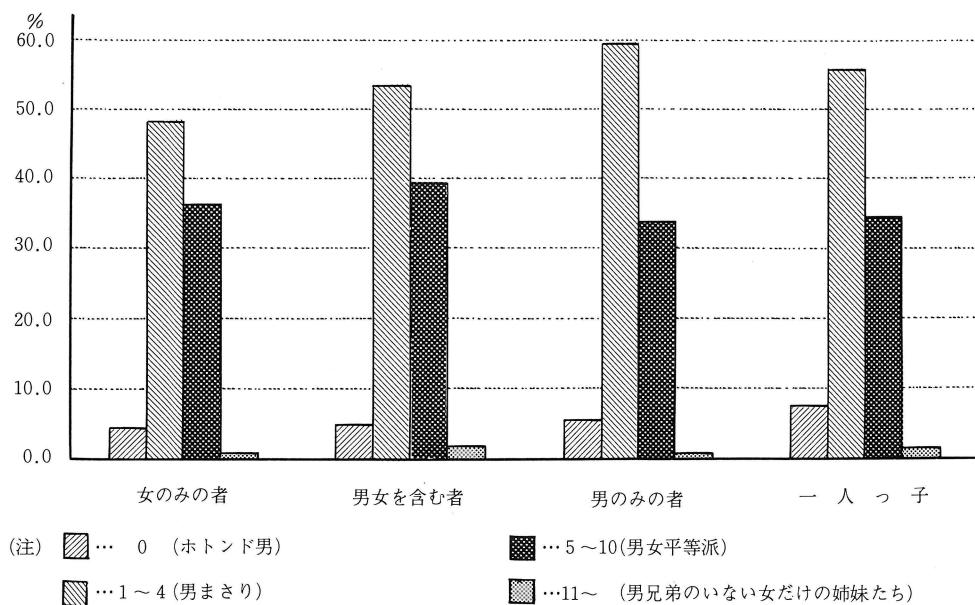


図2 チェック②によるF度の確認



ころである。したがって、この判断は適当でないといえる。

② 実際の育てられ方の反映と判断する。すなわち、チェックⅠの場合、生まれはどうあれ、長子や中間子と同じような育てられ方をしたものが多いと考える。しかし、最近の若者を「新人類」といい、D型（1人っ子的性格）の者が多いなどという一般的認識（前出書 p. 213～214）とは矛盾する。チェックⅡの場合、女の子だけのきょうだいでも男っぽく育った者が多いとみなし、女性的性格を備えた者がほとんどいないという解釈になる点で、これも現実離れた判断といえる。したがって、この判断もかなり無理がある。

③ 対象者の偏り又は適用の誤りと判断する。本研究の対象者は、北海道出身者が多く、ほとんどが18～19歳の女子短大生であるが、北海道人又は女子短大生が対象外であるとの記述は『姉妹型性格判断』にはないのであり、これらの者が偏りのある性格・行動傾向を持っていると判断するのも常識的に判断して無茶な解釈である。むしろ、畑田氏のいう「高校生から20・30代の女性」に該当し、様々な学科で学ぶ者542人に実施している点で、適切な対象者であり、偏りのない対象者である。したがって、この判断も該当しない。

④ 「調査票の作成手続きや実施方法に問題がある」と判断する。この判断は、調査票の項目構成が「姉妹型」チェックとは違ったものとなっているとか、方法で述べた実施の仕方が不適切であったとみるものである。これについては、調査実施者としては問題はないと思っているのであるが、オリジナル作成者や第三者の検討・指摘を待ち、不適切な場合は、適切なものを示してもらい、再度同様な条件で実施してみないと、適否の判断はつかない。

⑤ 結果の信頼性に問題があるとみる。すなわち、無記名に近い状態で実施したが、他人を意識しないで密に行う自己評定とは違って、他人に見られるという自己防衛意識が働き、正直に答えなかったり、でたらめに答えたり、無視したりしていて、得られた回答が歪んでいると判断するものである。方法で述べたように、「姉妹型を確認する尺度の妥当性を調べる調査である。学生番号を記入してもらうが、回答方法などに誤解があると判断される場合に、もう一度本人に確認してもらうためである。この結果を他の目的や個人別に利用することはない」という指示のもとに協力を要請しており、自己防衛意識が強く働くような内容でもない。他の調査の場合と同様に整然と行われたことから、そうした懸念は当たらないと思われる。

⑥ 尺度自体の問題と判断する。すなわち、「姉妹型」チェックの項目の選択・構成において妥当性の検討が不十分であったとみる。構成項目の数が少ない上に、識別力（弁別力）のない項目で構成されているため、結果的には差がつかなかったと考える。チェックⅡについては、11点以上を「F」だとする判定基準が妥当でなかったとも考えられる。オリジナルが、数千人の体験的データに基づく専門的判断で尺度化されたとされているが、数量的・統計的处理による妥当性の確認調査をしていない点で、ここに主な原因を見出さざるを得ない。ただし、別な対象群に実施してやはり識別力がないという結果が得られたり、別の手段による項目の選定により識別力のある尺度を作成して比較してみたりしない限り、尺度自体だけの問題と断定することはできない。

なお、以上の結果と考察を概要報告としてまとめ、原作者の畑田国男氏及び最初にこれらの尺度を発案・掲載した雑誌「ViVi」（講談社）編集部に平成元年12月中旬に送り、できるだけ客観的な立場で検討願ひコメントをいただきたいと要望したが、8か月経過後の平成2年8月24日現在、回答は得られていない。

#### Ⅳ お わ り に

以上のように、本研究の結果から結論的にいえば、残念ながら妥当性（識別性）という点では疑義のある尺度であるといわざるを得ない。しかし、このような結果になるのは本研究の場合に限られるのかもしれない。

そこで、まず、更に別な資料に基づいた検証を行うために、各種の年齢・職業・学歴・地域居住者を対象者とした実証的検討・確認をオリジナル作成者及び第三者的研究者にぜひ要望したい。

オリジナル作成者の畑田氏には、きょうだい関係、特に姉妹関係に多大な関心をもつ研究者の一人として、この場を借りて次の3点についても一考を要望したい。

① 週刊誌や著書やテレビ番組で個人に「姉妹型」を適用し論議する場合には、「姉妹型」チェック①・②の実施結果も示しながら行なってほしい。事例的に示すのでも、十分妥当性を証明することになるからである。「姉妹型」チェックの実施結果を示さないことは、これを実施していないで論議しているとみなされるし、もし実施しないで出生の位置関係だけで判断してしまうのなら、このチェック尺度は必要なく、著書の読者にのみこれによる確認を求めることはむしろ無用な混乱を招きかねないのではなかろうか。

② 100%該当するような尺度は現実にはなかなか作れないのであるが、この尺度の場合も例外でないのなら、数量的に適用の限界を明記してほしい。また、混合型・判定不能型の存在・処置についても言及すべきである。畑田氏によると、「数千人の体験的データに基づく専門的判断」によっているとのことであるが、これは「姉妹型」のことであって、「姉妹型」チェック①・②には必ずしも当てはまらないのではなかろうか。

③ 性格・適性診断や相性や職業選択を著書などで問題にする場合、興味・関心を抱いてそれを求め、自分についてやってみようとするのは、普通の平凡な高校生や大学生、あるいは20歳前半の女性が多いと思うので、そうした人たちへ適用した報告、そうした人たちが登場してきて、当てはまるとか当てはまらないとか答えている報告も掲載してほしい。ベスト・サンプル（典型）という理由で、文学作品の主人公、有名人、特別な人への適用例を多く示すことに終始するのは、現実離れた論議であったり、必要以上に誇張した言い方になるおそれがあるのではなかろうか。

最後に、人間理解を深める「姉妹型」あるいは「兄弟型」について、多くの研究者によって様々な角度から調査・研究が行われ、「姉妹型」チェック①・②のような尺度も何種類かが作られ、活発な論議がたたかわされることを期待したい。

(1990・8・24)

表6 チェック□による姉妹型の確認(突出型別)

単位：人(%)

姉妹型	長子	中間子	末っ子	一人っ子	全体
A型	103 (39.0)	27 (44.3)	60 (36.4)	22 (42.3)	212 (39.1)
B型	74 (28.0)	14 (23.0)	44 (26.7)	15 (28.8)	147 (27.1)
C型	14 (5.3)	3 (4.9)	10 (6.1)	1 (1.9)	28 (5.2)
D型	22 (8.3)	3 (4.9)	21 (12.7)	4 (7.7)	50 (9.2)
A B型	18 (6.8)	5 (8.2)	7 (4.2)	1 (1.9)	31 (5.7)
A C型	4 (1.5)	0 (—)	2 (1.2)	1 (1.9)	7 (1.3)
A D型	11 (4.2)	4 (6.6)	6 (3.6)	2 (3.8)	23 (4.2)
B C型	4 (1.5)	1 (1.6)	4 (2.4)	1 (1.9)	10 (1.8)
B D型	3 (1.1)	1 (1.6)	4 (2.4)	2 (3.8)	10 (1.8)
C D型	3 (1.1)	0 (—)	3 (1.8)	2 (3.8)	8 (1.5)
A B C型	2 (0.8)	1 (1.6)	0 (—)	0 (—)	3 (0.6)
A B D型	4 (1.5)	0 (—)	2 (1.2)	1 (1.9)	7 (1.3)
A C D型	0 (—)	0 (—)	1 (0.6)	0 (—)	1 (0.2)
B C D型	0 (—)	1 (1.6)	1 (0.6)	0 (—)	2 (0.4)
A B C D型	2 (0.8)	1 (1.6)	0 (—)	0 (—)	3 (0.6)
計	264 (99.9)	61 (99.9)	165 (99.9)	52 (99.7)	542(100.0)

(前表を整理したもの)

姉妹型	長子	中間子	末っ子	一人っ子	全体
A型	103 (39.0)	27 (44.3)	60 (36.4)	22 (42.3)	212 (39.1)
B型	74 (28.0)	14 (23.0)	44 (26.7)	15 (28.8)	147 (27.1)
C型	14 (5.3)	3 (4.9)	10 (6.1)	1 (1.9)	28 (5.2)
D型	22 (8.3)	3 (4.9)	21 (12.7)	4 (7.7)	50 (9.2)
混合型	43 (16.3)	11 (18.0)	26 (15.8)	9 (17.3)	89 (16.4)
不能型	8 (3.0)	3 (4.9)	4 (2.4)	1 (1.9)	16 (3.0)
計	264 (99.9)	61(100.0)	165(100.1)	52 (99.9)	542(100.0)

(注)① A型：長子性格。B型：中間子性格。C型：末っ子性格。D型：一人っ子性格。

② A B型：A型とB型の混合型。A C型以下同様な混合型。

③ A B C型：A型とB型とC型の混合型。A B D型以下同様な混合型。ここでは不能型とする。

④  $\chi^2$ 検定により各群間の分布の差を検定した結果、いずれの群間においても統計的に有意な差は認められない。したがって、この尺度で姉妹型を判定することは困難である。

表7 チェック□による姉妹型の確認(チェック点平均)

姉妹型	長子	中間子	末っ子	一人っ子	全体
	対象者 264人	対象者 61人	対象者 165人	対象者 52人	対象者 542人
A型	3.41(1.79)	3.44(1.85)	3.11(1.82)	3.33(2.00)	3.31(1.83)
B型	2.89(1.80)	3.16(1.87)	2.78(1.97)	2.67(1.73)	2.87(1.85)
C型	1.76(1.54)	1.82(1.43)	1.78(1.53)	1.85(1.43)	1.78(1.51)
D型	2.01(1.47)	2.31(1.37)	2.15(1.29)	1.94(1.36)	2.08(1.40)

(注)① 括弧内は標準偏差。

② t検定により各群間の平均値の差を検定した結果、いずれの群間においても統計的に有意な差は認められない。

表8 各姉妹型のチェック点合計点の分布

単位：人(%)

合計点	長子のA型	中間子のB型	末っ子のC型	一人っ子のD型
0	11 (4.2)	3 (4.9)	39 (23.6)	7 (13.5)
1	26 (9.8)	8 (13.1)	38 (23.0)	15 (28.8)
2	45 (17.0)	16 (26.2)	45 (27.3)	13 (25.0)
3	65 (24.6)	10 (16.4)	21 (12.7)	11 (21.2)
4	49 (18.6)	9 (14.8)	13 (7.9)	4 (7.7)
5	35 (13.3)	7 (11.5)	4 (2.4)	1 (1.9)
6	22 (8.3)	4 (6.6)	4 (2.4)	1 (1.9)
7	4 (1.5)	4 (6.6)	1 (0.6)	0 (—)
8	6 (2.3)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
9	1 (0.4)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
計	264 (100.0)	61 (100.1)	165 (99.9)	52 (100.0)
平均	3.41 (1.79)	3.16 (1.87)	1.78 (1.53)	1.94 (1.36)

(注)① チェック点合計の算出に当たっては、◎は2点、○は1点を与えた。

② 平均の括弧内は標準偏差。

③ 畑田氏によれば「A型は慎重で全体に少、C型は活発で全体に多」となるそうであるが、合計点の分布でみる限り、結果はむしろ逆である。

表9 チェック□による姉妹型の確認 (項目別該当者)

単位：人(%)

項目No.		長子	中間子	末っ子	一人っ子	全体
		対象者 264人	対象者 61人	対象者 165人	対象者 52人	対象者 542人
A型	1	165 (62.5)	45 (73.8)	106 (64.2)	35 (67.3)	351 (64.8)
	5	193 (73.1)	48 (78.7)	112 (67.9)	37 (71.2)	390 (72.0)
	9	133 (50.4)	31 (50.8)	81 (49.1)	23 (44.2)	268 (49.4)
	13	47 (17.8)	8 (13.1)	17 (10.3)	11 (21.2)	83 (15.3)
	17	171 (64.8)	30 (49.2)	85 (51.5)	27 (51.9)	313 (57.7)
B型	2	120 (45.5)	31 (50.8)	82 (49.7)	23 (44.2)	256 (47.2)
	6	139 (52.7)	31 (50.8)	75 (45.5)	29 (55.8)	274 (50.6)
	10	97 (36.7)	24 (39.3)	59 (35.8)	18 (34.6)	198 (36.5)
	14	115 (43.6)	40 (65.6)	65 (39.4)	18 (34.6)	238 (43.9)
	18	130 (49.2)	26 (42.6)	78 (47.3)	24 (46.2)	258 (47.6)
C型	3	139 (52.7)	34 (55.7)	71 (43.0)	28 (53.8)	272 (50.2)
	7	57 (21.6)	10 (16.4)	39 (23.6)	16 (30.8)	122 (22.5)
	11	42 (15.9)	13 (21.3)	36 (21.8)	10 (19.2)	101 (18.6)
	15	61 (23.1)	15 (24.6)	46 (27.9)	11 (21.2)	133 (24.5)
	19	50 (18.9)	13 (21.3)	32 (19.4)	11 (21.2)	106 (19.6)
D型	4	72 (27.3)	13 (21.3)	45 (27.3)	11 (21.2)	141 (26.0)
	8	183 (69.3)	47 (77.0)	122 (73.9)	33 (63.5)	385 (71.0)
	12	32 (12.1)	8 (13.1)	26 (15.8)	5 (9.6)	71 (13.1)
	16	82 (31.1)	22 (36.1)	53 (32.1)	19 (36.5)	176 (32.5)
	20	52 (19.7)	12 (19.7)	24 (14.5)	8 (15.4)	96 (17.7)

(注)① 該当者数は、当てはまると答えた数 (◎+○)。

②  $\chi^2$ 検定により各群間の差を検定した結果、次に挙げる2項目以外は、いずれの群間においても統計的に有意な差は認められない。したがって、識別力のある妥当な項目は2項目にすぎない。

A型 (長子的性格判定) 項目……17 「精算をゴマかすなんて、私には、とてもできない」

B型 (中間子的性格判定) 項目……14 「よく考えず、すぐ行動するので、失敗も多いが、そのことをあまり気にしない」



表10 チェック図によるF度の確認 (F度別該当者)

単位:人(%)

F度点	女のみの者	男女を含む者	男のみの者	一人っ子	全 体
0	9 (4.6)	5 (5.1)	11 (5.6)	4 (7.7)	29 (5.4)
1~4	114 (58.2)	53 (53.5)	116 (59.5)	29 (55.8)	312 (57.6)
5~10	71 (36.2)	39 (39.4)	66 (33.8)	18 (34.6)	194 (35.8)
11~15	2 (1.0)	2 (2.0)	2 (1.0)	1 (1.9)	7 (1.3)
16~19	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
20	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
計	196(100.0)	99(100.0)	195 (99.9)	52(100.0)	542(100.1)
平 均	3.92(2.29)	4.21(2.63)	3.64(2.31)	4.23(2.76)	3.90(2.41)

(注)①「女のみの者」とは、女きょうだいのみで、男きょうだいのいない者。

「男女を含む者」とは、女のきょうだいも男のきょうだいもいる者。

「男のみの者」とは、男きょうだいのみで、女きょうだいのいない者。

② 0:ホトンド男。1~4:男まさり。5~10:男女平等派。11~15:シングルF。16~19:ダブルF。20:恐怖のトリプルF。

③ 平均の括弧内は標準偏差。

④  $\chi^2$ 検定により各群間の分布の差を、t検定により各群間の平均の差を検定した結果、いずれの群間においても統計的に有意な差は認められない。

表11 前表の出生順別比較 (F度別該当者)

単位:人(%)

F度点	長 子		中 間 子		末 っ 子	
	女のみ	含む男	女のみ	含む男	女のみ	含む男
0	7 (6.2)	8 (5.3)	1 (6.3)	3 (6.7)	1 (1.5)	5 (5.1)
1~4	56 (49.6)	81 (53.6)	10 (62.5)	28 (62.2)	48 (71.6)	60 (61.2)
5~10	48 (42.5)	60 (39.7)	5 (31.3)	13 (28.9)	18 (26.9)	32 (32.7)
11~15	2 (1.8)	2 (1.3)	0 (—)	1 (2.2)	0 (—)	1 (1.0)
16~19	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
20	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)	0 (—)
計	113(100.1)	151 (99.9)	16(100.1)	45(100.0)	67(100.0)	98(100.0)
平 均	4.3(2.59)	4.0(2.39)	3.8(2.49)	3.6(2.46)	3.3(1.73)	3.7(2.46)

(注)①「含む男」とは、男・女又は男のみのきょうだいがいる者。

② 検定結果は、前表と同様に統計的に有意な差は認められない。

表12 表10のF度点の詳細表

単位:人(%)

F度点	女のみの者	男女を含む者	男のみの者	一人っ子	全 体
0	9 (4.6)	5 (5.1)	11 (5.6)	4 (7.7)	29 (5.4)
1	19 (9.7)	9 (9.1)	24 (12.3)	3 (5.8)	55 (10.1)
2	26 (13.3)	15 (15.2)	32 (16.4)	9 (17.3)	82 (15.1)
3	37 (18.9)	15 (15.2)	43 (22.1)	8 (15.4)	103 (19.0)
4	32 (16.3)	14 (14.1)	17 (8.7)	9 (17.3)	72 (13.3)
5	33 (16.8)	15 (15.2)	26 (13.3)	2 (3.8)	76 (14.0)
6	15 (7.7)	7 (7.1)	21 (10.8)	5 (9.6)	48 (8.9)
7	11 (5.6)	6 (6.1)	9 (4.6)	3 (5.8)	29 (5.4)
8	6 (3.1)	4 (4.0)	9 (4.6)	6 (11.5)	25 (4.6)
9	3 (1.5)	6 (6.1)	0 (—)	1 (1.9)	10 (1.8)
10	3 (1.5)	1 (1.0)	1 (0.5)	1 (1.9)	6 (1.1)
11	2 (1.0)	2 (2.0)	0 (—)	1 (1.9)	5 (0.9)
12	0 (—)	0 (—)	2 (1.0)	0 (—)	2 (0.4)
計	196(100.0)	99(100.2)	195 (99.9)	52 (99.9)	542(100.0)

表13 表11のF度点の詳細表

単位：人(%)

F度点	長 子		中 間 子		末 っ 子	
	女のみ	含む男	女のみ	含む男	女のみ	含む男
0	7 ( 6.2)	8 ( 5.3)	1 ( 6.3)	3 ( 6.7)	1 ( 1.5)	5 ( 5.1)
1	9 ( 8.0)	9 ( 6.0)	1 ( 6.3)	7 (15.6)	9 (13.4)	17 (17.3)
2	9 ( 8.0)	26 (17.2)	3 (18.8)	7 (15.6)	14 (20.9)	14 (14.3)
3	18 (15.9)	31 (20.5)	5 (31.3)	9 (20.0)	14 (20.9)	18 (18.4)
4	20 (17.7)	15 ( 9.9)	1 ( 6.3)	5 (11.1)	11 (16.4)	11 (11.2)
5	21 (18.6)	26 (17.2)	2 (12.5)	4 ( 8.9)	10 (14.9)	11 (11.2)
6	9 ( 8.0)	15 ( 9.9)	0 ( — )	4 ( 8.9)	6 ( 9.0)	9 ( 9.2)
7	9 ( 8.0)	7 ( 4.6)	1 ( 6.3)	3 ( 6.7)	1 ( 1.5)	5 ( 5.1)
8	4 ( 3.5)	8 ( 5.3)	1 ( 6.3)	2 ( 4.4)	1 ( 1.5)	3 ( 3.1)
9	2 ( 1.8)	3 ( 2.0)	1 ( 6.3)	0 ( — )	0 ( — )	3 ( 3.1)
10	3 ( 2.7)	1 ( 0.7)	0 ( — )	0 ( — )	0 ( — )	1 ( 1.0)
11	2 ( 1.8)	0 ( — )	0 ( — )	1 ( 2.2)	0 ( — )	1 ( 1.0)
12	0 ( — )	2 ( 1.3)	0 ( — )	0 ( — )	0 ( — )	0 ( — )
計	113(100.2)	151 (99.9)	16(100.4)	45(100.1)	67(100.0)	98(100.0)

表14 チェック②によるF度の確認 (項目別該当者)

単位：人(%)

項目No.	女 の み	男女を含む	男 の み	一 人 っ 子	全 体
	対象者 196人	対象者 99人	対象者 195人	対象者 52人	対象者 542人
1	14 ( 7.1)	10 (10.1)	11 ( 5.6)	2 ( 3.8)	37 ( 6.8)
2	8 ( 4.1)	4 ( 4.0)	8 ( 4.1)	2 ( 3.8)	22 ( 4.1)
3	159 (81.1)	82 (82.8)	157 (80.5)	45 (86.5)	443 (81.7)
4	43 (21.9)	25 (25.3)	43 (22.1)	18 (34.6)	129 (23.8)
5	22 (11.2)	13 (13.1)	25 (12.8)	12 (23.1)	72 (13.3)
6	133 (67.9)	61 (61.6)	124 (63.6)	34 (65.4)	352 (64.9)
8	23 (11.7)	6 ( 6.1)	16 ( 8.2)	6 (11.5)	51 ( 9.4)
9	32 (16.3)	25 (25.3)	29 (14.9)	8 (15.4)	94 (17.3)
10	122 (62.2)	64 (64.6)	116 (59.5)	33 (63.5)	335 (61.8)
12	19 ( 9.7)	17 (17.2)	17 ( 8.7)	7 (13.5)	60 (11.1)
13	28 (14.3)	17 (17.2)	32 (16.4)	9 (17.3)	86 (15.9)
14	19 ( 9.7)	9 ( 9.1)	11 ( 5.6)	4 ( 7.7)	43 ( 7.9)
16	1 ( 0.5)	0 ( — )	4 ( 2.1)	1 ( 1.9)	6 ( 1.1)
17	128 (65.3)	68 (68.7)	126 (64.6)	31 (59.6)	353 (65.1)
18	8 ( 4.1)	2 ( 2.0)	6 ( 3.1)	2 ( 3.8)	18 ( 3.3)
19	100 (51.0)	48 (48.5)	82 (42.1)	23 (44.2)	253 (46.7)
21	40 (20.4)	21 (21.2)	33 (16.9)	13 (25.0)	107 (19.7)
22	26 (13.3)	13 (13.1)	20 (10.3)	5 ( 9.6)	64 (11.8)
24	52 (26.5)	31 (31.3)	64 (32.8)	23 (44.2)	170 (31.4)
25	111 (56.6)	62 (62.6)	104 (53.3)	27 (51.9)	304 (56.1)
7	27 (13.8)	15 (15.2)	20 (10.3)	10 (19.2)	72 (13.3)
11	86 (43.9)	42 (42.4)	87 (44.6)	24 (46.2)	239 (44.1)
15	72 (36.7)	39 (39.4)	80 (41.0)	21 (40.4)	212 (39.1)
20	3 ( 1.5)	4 ( 4.0)	3 ( 1.5)	0 ( — )	10 ( 1.8)
23	48 (24.5)	22 (22.2)	49 (25.1)	14 (26.9)	133 (24.5)

(注)①「女のみ」の者は、女きょうだいのみで、男きょうだいがいない者。

「男女を含む」の者は、女きょうだいも男きょうだいもいる者。

「男のみ」の者は、男きょうだいのみで、女きょうだいがいない者。

② 最後の5項目は、該当する者の方がF度が低い。

③  $\chi^2$ 検定により各群間の差を検定した結果、いずれの群間においても統計的に有意な差は認められない。したがって、識別力のある項目とはいえない。